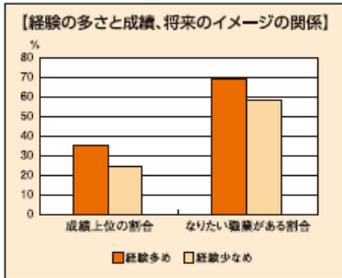




ルルブル通信

◆ 「よく遊ブ」② ～豊富な経験で意欲の向上～



注1) ヘネッセ教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」2004年をもとに作成。
注2) 「経験多め」とは、経験に関する12の調査項目全てに回答し、「たくさんあった」、「とどまらなかった」を合わせて、8つ以上の割合。

「果物の皮を包丁でむいた」、「虫をつかまえて遊んだ」、「赤ちゃんをだっこした」、「親に美術館や博物館に連れて行ってもらった」。少し昔なら誰もが子どもの頃に経験したことです。最近の調査では、これらの経験をしている小学生は4割から6割程度という結果です。

また、こうした日常生活上の経験が多い子どもほど、成績上位の割合が高く、なりたい職業があるなど、自分の将来についてのイメージを持っていることが分かってきました。

豊富な遊びや生活の経験が、子どもの積極性や学習意欲の向上につながっていくのです。



おうちでは、休みの日など、子どもと一緒に体験活動をしてみましょう。海や山での自然体験から、料理や日曜大工などの日常生活における体験まで、どんなことでも子どもにとってはドキドキする未知への挑戦になります。

◆ Let's 「ルルブル」！

県教育委員会では、平成26年度、ルルブルに関する様々な取組を展開しています。

知事と川島教授の対談をテレビ番組で放送します

子どもたちの成長に大切な生活習慣「ルルブル」について、知事と川島教授にお話しいただいた様子を、2月11日（水）午後2時から2時30分（予定）に、仙台放送のテレビ番組『脳科学がひも解くルルブルのすすめ』で放送します。みやぎっ子ルルブル推進会議会長である村井知事と、同顧問である川島隆太教授の対談を、ぜひご覧ください。



ルルブル挑戦事業を実施しました

ルルブルを家庭で楽しく実践できるように制作した「ルルブルチャレンジ手帳」を、県内の幼稚園、保育所、小学校等に配布しました。手帳を家族と一緒に読んでルルブルを実践し、「寝ル」「食ベル」「遊ブ」ができれば、手帳内の「チャレンジシート」に2週間、シールを貼っていく取組です。チャレンジシートを期限（H26.12末）までに返送した学校等には、2月中に「ルルブルキッズ認定証」をお送りしますので、もうしばらくお待ちください。

みやぎっ子ルルブルフォーラムを開催しました

例年開催しているみやぎっ子ルルブル推進会議総会を、今年度はフォーラム形式で開催しました。フォーラムでは、「みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体表彰」や、今年度初めて実施した「ルルブルポスターコンクール表彰」をはじめ、顧問の川島隆太教授の講演や、川島教授とタレント・俳優である照英さんとの対談を実施し、ルルブルの大切さについてお話しいただきました。詳しい内容は、次号のルルブル通信でご紹介する予定です。お楽しみに！

平成25年度みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体 取組紹介⑤⑥（全6回）

昨年度、みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体として16の団体が表彰されました。そのうち今回は、3件の小学校と1件の企業・団体の主な取組内容と成果をご紹介します。（裏面をご覧ください）



気仙沼市立松岩小学校

～ 輝け！松岩の「こども」～

取組の内容

栄養教諭による食育指導や地域の水産業を活用した食育活動、給食の完食を奨励する「ペロリンピック」を実施しています。また、児童のめあてとなるカードを活用し、持久走や縄跳びなどの体力づくりに通年で取り組んでいるほか、震災後は大学やスポーツ支援団体と連携し、水泳教室やスポーツ教室を実施しています。

縦割りでの挨拶運動や薄着で学校生活を奨励する「薄着表彰」も実施しています。



取組の成果

給食の残食の割合が減少してきたほか、ほとんどの児童が朝食を食べるようになってきています。

また、休み時間に外遊びをする児童や自主的に体力づくりに励む児童が増えたほか、薄着の奨励により風邪をひく児童の数が減少しています。挨拶運動を通じて地域との関係も良好になっています。

気仙沼市立大谷小学校

～ 元気いっぱい 笑顔かがやく 大谷っ子～

取組の内容

養護教諭による食育指導として、「健康を考えた食事」をテーマに、食品の栄養バランスや摂取量を学習する「紙上バイキング」や、家庭でのバランスのよい食事を促す「ワークシート」を活用した取組を実施しています。

また、校庭に仮設住宅があり、運動や外遊びが制限されていましたが、校舎裏に広い校庭代替地が整備されました。教科体育はもちろん、ボール運動や、震災支援で寄贈された一輪車や竹馬などを活用した体力づくりに励んでいます。一輪車や竹馬などには、それぞれ技能の難易度を設定し、「検定会」を開催するなど、運動意欲を引き出す工夫を取り入れています。



取組の成果

朝食を食べない児童の数が減ってきており、食の大切さが見直され、給食の残食も少なくなってきました。また、一輪車や竹馬などの検定会を実施することで児童の主体性が促され、体力・運動能力調査においても良好な結果を示しています。

仙台市立田子小学校

～ いきいき すくすく もりもり 元気な田子っ子～

取組の内容

田子小健康教育キャラクター「たごっしー」

児童の生活を振り返るための「いきいき すくすく もりもり 元気チェックシート」の活用や、毎月19日の「食育の日」の食育指導などを実施しています。また、朝の活動「いきいきタイム」における、体幹を鍛えるための運動や体の動きを高める体操などの実施をはじめ、日常的に外遊びができるよう運動環境を整備するなど、食習慣・運動習慣・生活習慣の3つの視点を取り入れながら健康教育を推進しています。

さらに、地域交流を図るため、小・中・高・地域が連携した「あいさつ運動」も実施しています。



取組の成果

朝食を食べて登校する児童や好き嫌いがあっても給食を残さず食べる児童が増えたほか、児童の健康意識が高まり、運動や外遊びをする児童が増えてきています。

また、あいさつ運動を通じて学校・家庭・地域のつながりが深まっています。

食育 NPO「おむすび」

～ 親子でいっしょに・・・食育を！～

取組の内容



若い親や子どもたちに食の楽しさや大切さを伝えるため各体験活動を実施しており、「親子で市場を体験しよう！」では、仙台中央卸売市場を親子で見学し、早朝の競りの様子などを体験するとともに、見学後に市場の食材を使った朝食を食べる取組を実施しています。

また、「お魚がきっと好きになる料理教室」では、親子で魚を使った料理を作るだけでなく、魚に関する講話や魚売りの見学などを織り交ぜながら実施しています。

その他、「親子の料理教室」として、旬を取り入れた季節料理や県内産大豆を使った味噌づくりなども実施しています。

取組の成果

早朝の市場体験では、参加した親子の早寝・早起きのほか、食に関する興味・意識の向上につながっているほか、魚を中心とした料理教室では、子どもは魚を好きになるきっかけとなり、親は子どもと料理することの大切さを知るきっかけとなっています。また、料理教室を通じて、調理方法だけでなく、伝統的な食文化や地産地消の大切さを知るきっかけにもつながっています。